

デーリー東北

2023年(令和5年)8月10日(木曜日) (2)

純米酒「しまもり」完成



八戸工業大(坂本禎智学長)と八戸酒類(橋本八右衛門代表取締役)、地域資源の発掘に取り組み八戸市の住民団体「ふるさとルネッサンス」(上野大輔代表)は9日、持続可能な開発目標(SDGs)の考えを取り入れ、同市島守地区で無農薬栽培された「まっしぐら」を原料とした八鶴特別純米酒「しまもり」が完成したと発表した。同社で初のSDGs関連の商品で、価格は1672円(税込み)、約1700本限定。

八工大「SDGsプロジェクト」

学生ら無農薬米育てる

八鶴特別純米酒「しまもり」の完成を発表した坂本禎智学長(中央)と橋本八右衛門代表取締役(左から2人目)ら

＝9日、八戸市内

「しまもり」はコクとふくよかさを兼ね備えたバランスの良い味に仕上がった。ラベルは「新しいクラシック」をテーマに2種類を制作。学生らのアイデアを基に、同地区伝統の田植えの姿などを表現している。

同大の番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」で同日開かれた完成披露会では、坂本学長が「次の価値を創造するイノベーションに結び付けていく活動となっている」、橋本代表取締役が「島守のコメの味が感じられる良い商品ができた」とそれぞれあいさつ。関係者らで乾杯して、出来を確かめた。

「しまもり」は同社のショッブなどで販売中。今後は市内のスーパーなどに並ぶほか、首都圏への出荷も見込んでいます。

無農薬米作りは昨年度から開始。学生や団体のメンバーらが田植えし、雑草を手作業で除去するなどしてまっしぐらを育て上げた。

「しまもり」の一環。無農薬栽培で環境に配慮しながら、日本酒開発によって無農薬米自体の価値を高めることで持続可能な農業につなげられるかを模索している。同社にとっては、近年関心が高まっているSDGsに参画できるメリットがあるという。

(藤村大地)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。